

## 平成 31 年 3 月期 第 3 四半期累計期間の連結業績の説明

当概要は「平成 31 年 3 月期 第 3 四半期決算短信」「2019 年 3 月期 第 3 四半期決算参考資料」に基づいた説明です。

## 1. 第 3 四半期累計期間（2018 年 4 月～2018 年 12 月）の連結業績の説明（前年同期比較）

## ● 当第 3 四半期累計期間の連結損益計算書について

	前第 3 四半期 連結累計期間	当第 3 四半期 連結累計期間	増減
売上高	8,570 億円	9,972 億円	1,402 億円
売上総利益	3,263 億円	4,090 億円	827 億円
(売上総利益率)	(38.1%)	(41.0%)	
営業利益	1,564 億円	2,200 億円	635 億円
(営業利益率)	(18.3%)	(22.1%)	
経常利益	1,945 億円	2,402 億円	457 億円
(経常利益率)	(22.7%)	(24.1%)	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,351 億円	1,687 億円	336 億円
(親会社株主に帰属す る四半期純利益率)	(15.8%)	(16.9%)	

## (売上高の説明)

Nintendo Switch では、10 月に発売した『スーパー マリオパーティ』が 530 万本、11 月に発売した『ポケットモンスター Let's Go! ピカチュウ・Let's Go! イーブイ』が 1,000 万本、12 月に発売した『大乱闘スマッシュブラザーズ SPECIAL』が 1,208 万本の販売を記録する大ヒットとなり、プラットフォームの活性化に貢献しました。加えて、これら以外のタイトルやソフトメーカー様のタイトルも順調に販売数を伸ばし、当期のミリオンセラータイトル数はソフトメーカー様のタイトルを含めて 20 タイトルとなりました。年末商戦ではソフトウェアによるハードウェア販売の大きな牽引も見られ、その結果ハードウェアの販売台数は 1,449 万台（前年同期比 19.5%増）、ソフトウェアの販売本数は 9,464 万本（前年同期比 100.9%増）となりました。

一方、発売から 8 年目を迎えたニンテンドー 3DS では、ハードウェアの販売台数は 231 万台（前年同期比 60.5%減）、ソフトウェアの販売本数は 1,108 万本（前年同期比 64.5%減）となりました。

その他、「ニンテンドークラシックミニ ファミリーコンピュータ」および「ニンテンドークラシックミニ スーパーファミコン」が合計 583 万台の販売となりました。

ゲーム専用機におけるデジタルビジネスでは、主に Nintendo Switch のパッケージ併売ソフトや追加コンテンツ等による売上が順調に伸び、デジタル売上高は 842 億円（前年同期比 95.1%増）となりました。

スマートデバイスビジネスでは、当期に配信を開始した『ドラガリアロスト』をはじめ、配信済みのアプリも国内外で多くのお客様に楽しんでいただいております、スマートデバイス・IP 関連収入等の売上高は 333 億円（前年同期比 14.7%増）となりました。

（売上総利益および売上総利益率の説明）

売上総利益は、売上高の増加により前年同期比 25.4%増の 4,090 億円となりました。売上総利益率が前年同期と比べて 2.9%増加した要因は、売上高に占めるソフトの売上構成比率が上昇したことや、利益率の高いデジタル売上高の割合が増加したことなどによります。

（営業利益および経常利益の説明）

営業利益は、主に売上総利益が増加したため前年同期比 40.6%増の 2,200 億円となりました。経常利益は営業利益が増加したことに加え、主に米ドルの金利上昇による受取利息が増加したことなどにより 2,402 億円となりました。

## 2. 平成 31 年 3 月期 通期の予想販売数量の修正

第 3 四半期までの販売状況と第 4 四半期の見通しを踏まえて、2018 年 4 月 26 日に開示しました通期の予想販売数量を以下のように修正いたしました。

	2018/4/26 発表	2019/1/31 修正発表※	増減
Nintendo Switch ハードウェア	2,000 万台	1,700 万台	300 万台減
Nintendo Switch ソフトウェア	1 億本	1 億 1,000 万本	1,000 万本増
ニンテンドー3DS ハードウェア	400 万台	260 万台	140 万台減
ニンテンドー3DS ソフトウェア	1,600 万本	1,300 万本	300 万本減

※ 各ソフトの予想販売数量は、当第 3 四半期までの実績部分にはハードに同梱して販売した数量を含みますが、予想部分にはハードに同梱する数量は含みません。

なお、修正後の予想販売数量をもとに通期の連結業績予想を見直した結果、期初の連結業績予想から修正を要するようない離が見られなかったため、連結業績予想の修正は行っていません。

当該説明に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性を含んでいます。現実の結果（実際の業績および配当予想額を含みますが、これに限られません。）は様々な要因の変化により、これら見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきくださいますようお願いいたします。